

市民病院だより

認知症について

小城市民病院名誉院長

佐藤 彬

認知症について、以前、当院
脳神経外科の田淵医師が市民病
院だよりに書いておられます。

私も老健施設で、たくさんの認
知症の方を診て来て、家族の対
応が何よりも大切なことを痛感
しています。今回は、認知症と
の付き合い方について紹介しま
す。

認知症は病気です

- ぼけと認知症は違います
- 食事内容を忘れることがあるのがぼけで、食べたことを忘れるのが認知症です
- 年を取ると誰でも認知症になるわけではありません
- 放置すると、進行して寝たきりになったり、合併症で命にかかわったりします

- 病気だから、予防と治療があまり
りません
- 早期発見が大切です

認知症の症状が出てから受診するまで平均2年かかっている

認知症も早期発見と治療が重要です。そして気付くのは医者ではなく家族です。認知症を見つけたら、早急に専門医に相談し、適切な治療を受けましょう。

家族が認知症を見つけるには

最も多い症状は、「同じことを何度も言ったり聞いたりする」です。次に、物の名前が出てこなくなる、以前はあった興味、関心が無くなるなどです。疑わしい時は「今、あなたは何歳？」と聞いてください。(生年月日は古い記憶ですから答えられます)また、今日の年月日、曜日を聞くのも良いでしょう。

決め手は、「最近どんな二語一語がありましたか？」です。半数は正確に答えきれず、4割の人は認知症に特有の、繕いや言い訳をします。

なるべく早く専門医へ

認知症の症状がある方の1割は、手術や薬剤で劇的に治ります。

すべての認知症を治すことはできませんが、塩酸ドネペジルという薬に加えて、平成23年7月から、さらに3つの薬が使えるようになったため、幸せに過ごせるようになる時間を長くすることが可能になりました。まずは正しい診断を受けましょう。なお当院には「物忘れ外来(田淵医師)」がありますので、お困りの方は早めにご相談ください。



小児科だより

子どもの発育

こどもは、低年齢ほど急激な発育をします。寝てばかりだった赤ちゃんが、首がすわり、寝返りをして、お座り、ハイハイ、つかまり立ち、一人歩きができるようになっていきます。また、こどもの呼吸や脈の数、腎臓の働きなど大人とはかなり違いますので、こどもを観察する時や薬の量には注意が必要です。

以下はおおよその目安ですので、参考にしてください。

- ★身長 出生時50cm
1～1.5年で1.5倍、5年で2倍
- ★体重 出生時3kg
4か月で2倍/1年で3倍
- ★呼吸の数 乳児30～40/
幼児24～40/学童20～30/
思春期12～16
- ★脈の数
3か月未満80～200/
3か月～2歳75～190
- ★腎臓の働き おしっこは、1歳半頃からがまんすることが可能となり、3歳頃に完成します。

小児科が拡充しました

毎週木曜日の診療時間を19時まで(受付は18時30分まで)延長しています。

お知らせ

佐藤彬名誉院長の内科外来を週2回に拡充しました。

木曜日午前中の肝臓外来は従来通り予約制ですが、新たに担当する水曜日の午後は新患、旧患いずれも予約なしで診察します。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>